

(本レポートを著者の許可無く、無断転写・無断転載は一切禁じます。)

～だから僕は誰でも
ネットビジネスを成功できると
心から言いたい～

山崎

初めまして&こんにちは、山崎です。

ネットビジネスを始めてから早3年

現在僕は27歳で2~3日に1時間程度のパソコン作業をするだけで、安定して同年代の給料とは比較にならないほどの金額を稼げるようになりました。

その結果、

- ・ 仕事で嫌な思いをすることが一切なくなった
- ・ 時間を全く気にせず遊べるようになった
- ・ 欲しいと思ったものは値段を気にせず買うようになった
- ・ 外食時にメニューの値段を見なくなった
- ・ 寝たい時は時間を気にせずいくらでも寝れるようになった
- ・ 「沖縄に行きたい！」と思った一時間後には、飛行機乗って沖縄に行けるようになった
- ・ 大切な人たち（友達・家族・恋人等）に値段を気にせずプレゼントをあげられるようになった

などなど、

同じ20代後半から見たらありえないほど、自由で快適あり、未来への経済的な不安のない生活を送れるようになりました。

さらにビジネスは順調そのもので、
今後はもっと利益が上がり、さらに

- ・金銭的な面
- ・精神的な面
- ・時間的な面

と様々な面でもっと自由になっていけることができそうです。

このことから、
今僕は自分の人生を思い通りにすることができており、
最高の人生を歩んでいると感じております。

そして、そんな僕が今改めて言いたいことは

**ネットビジネスで月収 100 万円程度稼ぐことなど、
誰でもしっかりと取り組むことができれば可能である。**

ということですよ。

これは決してセールストークでも誇張ではなく、
僕の心からの主張です。

しかし、僕がこのような主張をする度に

「山崎はセンスや才能があるからそんなことが言えるんだよ」

「センスや才能がない自分にはそんな簡単に稼ぐことなんて無理だよ」

と、多くの人に思われ、時には

「実現不可能なことなのに、あまり希望を持たずようなことを言わないでください」

とまで言われたこともあります。

だけれども、僕はこのようなことをいくら言われても

**ネットビジネスで月収 100 万円程度稼ぐことなど、
誰でもしっかりと取り組むことができれば可能である。**

と、強く主張をし続けます。

なぜなら、自分の幼少時代や学生時代の時の過去を振り返ると
あなたの方が本当に才能やセンスに満ち溢れており、

しっかりと取り組さえすれば、
ネットビジネスで稼ぐことなど、

非常に容易いことであると、
僕は「本気」で思っているからです。

．．．．．と、言うことで、

ここから先はその理由を、

僕のサイトのわらしべストーリー では、
僕がどれだけ人間として劣っていたのかを、

どうしても晒け出すことが怖くて、
詳しく書くことを躊躇していたり、

(本レポートを著者の許可無く、無断転写・無断転載は一切禁じます。)

若干事実とは異なることを書いてしまったので、

**今回は全てを嘘偽りなく晒け出すことを決意し、
このレポートに「僕の真実」を書くことにしました。**

このエピソードを読んでもくれた方が、

**「本当に自分の過去のことなど関係なく、
今から努力して、しっかりやることさえできれば、
ネットビジネスで成功できるんだ！」**

と「1ミリでも」希望を持ってもらえればと思い、
僕の偽りない真実を書いていきたいと思います。

それでは長くなりますが、
最後までお付き合いいただければ幸いです。

(本レポートを著者の許可無く、無断転写・無断転載は一切禁じます。)

～第1章～

両親が特別支援学校（仲良し学校） を真剣に考えた山崎の小学校時代

先生「はい、やまざきくん、『た・ち・つ・て・と』だよー」

僕「※□△○×」(聞き取り不可能)

先生「じょうずだねー。もういっかいだけいってみようか？」

広い教室の中でたった三つだけ机を合わせて
言葉の学校の先生、僕の母親、

そして、何回も何回も
「たちつてと」や「まみむめも」や「らりるれろ」等の
発音を練習する小学一年生の僕。

僕「(なんでぼくは、みんなとおなじようにことばが、
はなすことができないのだろう)」

毎週月曜日と水曜日の朝、
クラスで1人だけ、朝から学校に登校せずに、

何らか「障がい」を持った子供が通う
「特別支援教室」で言葉の指導を受けた後、

母親に車で2時間目の途中から授業に関する為に
送ってもらう途中に僕が頭の中でいつも考えていたことです。

そして、いざ2時間目の途中から授業に参加すると

友達「やまざきくんは月よう日と水よう日の朝はどこにっているの？」

と言われた時に、

僕「こ×ばのがっこう※よ！」

友達「え？なんて言ったの？わかんないよー」

このように純粋な日本人であるに関わらず、
上手く日本語がしゃべれない僕は、

学校の友達と上手く話すことさえもできないのが苦痛であり、
必然的にひとぼちでいることが多い人間でした。

また、他にも

国語の授業中にひらがなのプリントが配られて、
みんなはスラスラとひらがなを上手に書いていくにも関わらず、

1人だけ利き手じゃなく逆手で書いているような、
解読不能のひらがなしか書けない。

このことから

「よめない文字はやまざきくんの国語のプリント！」

と、読めない文字のはずなのに、
クラスの全員が誰かがわかるプリントに。

生活科で「折り紙」でツルを折る授業だったのですが、
クラスで僕だけ最後までツルを折ることができずに、

自分だけ特別に簡単な

「コップ」

を折ることになることに。

体育の水泳の時間にバタ足で 10m 進むだけのテストなのに、
バシャバシャと水しぶきを高く上げるだけで全く前に進まずに、

結局テストをクリアすることができずに
僕だけビート板を使うことになる。

さらに「リボン結び」がどれだけ習っても
一向に結ぶことができずに、

靴紐がほどけてしまうと自分で結べない為。
ユルユルの状態で履くか、

唯一結ぶことのできた「固結び」で、
キツキツの状態を靴を履き続けていました。

ですから、そんな状態で家に帰ると、
母親に固結びが固くなりすぎて解けずに、

「なんで靴紐を固結びしちゃうの!？」

と言われる始末でした。

そして、極め付けは国語のテストの問題で

「ほしがきれいな夜でした。何がきれいな夜でしたか？」

と言う超イージーな問題を真剣に考えた末に

僕「うーん・・・・・・・・『つき』なのかなあ」

と、とんでもない回答して、

母親に

母親「問題を読めば『ほし』って書いてるでしょ？なんでわからないの？」

と言われても

僕「・・・・・・・・だって、わからないんだもん。。。」

と言ってしまふような少年でした。

だからこそ、このような状態だった僕は、
後に母親から聞いたのだが、

僕は担任の先生から

**「お宅のお子さんはお友達と全然遊ばないし、
何かと学校生活で色々な面で苦勞しているようなのですが、
家ではどうなのでしょう？」**

と、かなり心配されていたみたいです。

また、僕の母親は

「この子はもしかしたら、 少し知恵遅れな子なのかもしれない」

と父親と話し、僕のことを

「特別支援学校（仲良し学校）」

に転校させることも真剣に検討してみたいです。

このことから僕は多くの人が
勉強や運動で特別何も苦勞なく過ぎていく小学生時代から

「みんなはふつうにできるのに、ぼくはなにもできない」

と言う、

「圧倒的な劣等感」

を感じて過ごしてきました。

そんな圧倒的な劣等感を小学1年生から
受けていて辛い毎日を送っていた僕でしたが

「学校なんて嫌だ！行きたいない！」

と、いつも思っていました、

(本レポートを著者の許可無く、無断転写・無断転載は一切禁じます。)

親には「学校に行きたくない」と言わずに、
いつも無理して頑張って

「気合と根性のみ」

で登校していました。

恐らく、普通の子供であれば、
登校拒否になること濃厚だと思います。

しかし、なぜ僕が「気合と根性のみ」で
登校できたのかというと・・・・

(本レポートを著者の許可無く、無断転写・無断転載は一切禁じます。)

～第2章～

幼い僕を救ってくれた
母親が録画してくれて、擦り切れるまで見た
ウルトラマンのビデオ

僕が苦痛を感じる学校から帰ってきて一番にすること。

それは母親が録画してくれた
「特撮番組」のビデオを見ることでした。

特に僕はウルトラマンのビデオが大好きで
それこそ同じビデオを何回も何回も見ていました。
(今から20年前でDVDがない時代ですから)

それこそ、何回も見すぎてテープが擦り切れるほどです。

で、そんなウルトラマンのシリーズでも
僕が好きだったのは「ウルトラマンレオ」という作品でした。

なぜ、この作品が好きだったのかというと、

このウルトラマンは

**初めは出てくる怪獣に負けるのですが、
「過酷な特訓」をすることによって新しい技を習得し、
最後は必ず怪獣に勝つのです。**

だけど、その特訓が今大人になった僕が見ても
「これ絶対拷問レベルだろ」というよう超キツイ特訓の様子。

しかし、当時の僕は

「ぼくもさいごまでぜったいにあきらめないで、
きつい『とっくん』をすれば、
ウルトラマンみたいになれるんだ！

だから、がっこうに行くことは、
ぼくにとっての『とっくん』なんだ！」

と、毎日辛い思いをして学校から帰ってくるのですが、
毎日このウルトラマンのビデオを見ることによって、

「諦めずに努力を積んでいけば、きっと未来は良くなるはず」

と、幼いながらも頑張り続けることによって、
いつかは報われるという「希望」を持つことによって、
何とかギリギリのところまで僕は精神を保っていたのです。

そして、何回も何回も失敗して、
自分が情けなくて、目を腫らすほど泣いても、
最後まで絶対に諦めずにチャレンジし続けました。

すると・・・・・・・・

何もかもが失敗に終わっていたことが多かった僕でしたが、
諦めないで何事も取り組んでいった結果、

- ・少しずつ言葉の発音がうまくなってきた
- ・文字も解読できるレベルに書けるようになった
- ・50点以上取れなかった学校テストで50～70点を取れるようになった
(小学生のテストなので周りの人は無勉でほぼ皆80点以上取っていますが笑)

と、このように少しずつですが、
できないことができるようになったのです。

また、何事にも諦めずに、
いつも真面目に一生懸命やっていたので、

それを見たクラスメイトが

「やまざきくん、てつだってあげるよー」

「おべんきょうでわからないところあったらきいてね」

**「おまえはぜんぶダメなやつだけど、
いつもいっしょうけんめいだな！きらいじゃないぜ！」**

と、何をやってもダメだけど全くくじけない、
僕のことを好意的に見てくれる人が多くなり、
学校に通うことが辛くなくなってきたのです。

．．．．．こうして少しずつですが
「頑張り続けること」によって、
自分の人生変えることができた僕は

**「やっぱりウルトラマンといっしょで、
がんばりつづければ、
いつかはなんでもうまくいくんだ！」**

と、今まで何をやってダメで自分に絶望しか感じていなかったのですが、
頑張ることによって新たな道が開けることをまさかの親でも先生でも友達でもなく

「ウルトラマンのビデオ」

によって変えることができたのです。

しかし・・・・・・今この歳になって思うと、

僕が変われるきっかけは
特別支援学校（仲良し学校）並みの知能の僕のことを変な心配をしないで、
普通の子供と同じように育てて、

ウルトラマンのビデオを毎日学校から帰ってきてみることに

「そんなばっかり見てないで勉強しなさい！
そんなビデオいつも見てるからあんたはダメなのよ！」

等、叱らずに僕の取る行動を受け入れてくれ、
僕の可能性を潰さなかった「両親」のおかげがあったからこそ
今の僕がいますので、本当に心から感謝をしております。

父さん、母さん、本当にありがとうございます。

・・・・・・ですが、

～第3章～

自分には才能やセンスがないことが
嫌でもわかり、

嫌でも感じざるを得ない
劣等感を感じた少年野球の思い出

一生懸命努力して、
あくまでも平均以下の僕でしたが、

頑張ることによって未来が変わり、
結果がついてくることに少しずつ自信をつけて、
生きているように見える僕でしたが・・・

**現実には漫画やドラマや映画のように
全て上手くいく事などないものです。**

確かに昔よりは頑張ることによって
自信をつけてきた僕でしたが、

それでも大して努力もしていないのに、
僕よりも勉強やスポーツなど上手くこなしていける

クラスメイトを毎日目の当たりにしていますので、
嫌でも「劣等感」を突きつけられる日々が続きました。

特に今でも忘れられない「少年野球」の出来事です。

僕には2歳年上の兄がいるのですが、
その兄が友達に「少年野球」に誘われて、

そのタイミングで母親に
「お前も体鍛える為にやりなさい！」
と言うことで、

小学3年生の夏から僕は
少年野球をすることになったのです。

で、少年野球に入って一通り、
投げ方、打ち方（バッティング）、球の取り方（守備）を教わるのですが……

僕「全然うまくできない……」

そう、僕は勉強が苦手なだけでなく、
運動も全般的に苦手でしたので、

兄や他の少年野球に入っている子供たちは、
入部してから一ヶ月ぐらいすると、
野球が上手になっていくのですが、

僕はというと……

監督「バットを振る時に力みすぎだ！もっとリラックスしろ！」

山崎「わかりました！」

コーチ「おい！山崎！そんなのも取れないのか！」

山崎「すいません！」

ボールを投げるのはそれなりに上手くなったものの、
打つこと、そして玉を取ることが全然上手にならない。

ですから、監督やコーチから

監督・コーチ「上手くできないのなら、もっと自主練をしなさい。」

と、よく言われていました。

ですから、僕は家の庭に空いているスペースに、
父親にバッティングの練習をできるグッズを作ってもらって

学校から帰ってきたら、
一人で黙々とバッティングの練習を欠かさずしていましたが、

同じ学校の少年野球をやっている友達に、
野球の練習に誘われた時は一切断らずに

「練習をすればきっといつかはうまくなるんだ！」

過去の体験からを通して、
自分の実力が向上することを信じて、
進んで自主練をしていきました。

しかし・・・・・・・・

監督「よし！今日の試合に出るメンバーは1番田中、2番 長谷川・・・・・・・・9番小林！以上！」

いくら自主練をしても僕はあまり野球が上達せずに、
結局小学6年生の卒業までで試合のスターティングメンバーに選ばれたのは、

レギュラー組が遠征に行っていた時の1回だけであり、
それ以外の時はいつも試合に出れるか出れないかの補欠の代打要員でした。

**さらに僕は小学3年生の時から野球をやっているはずなのに、
小4、小5から野球を始めた人にアツという間に実力が抜かされたり、**

なんなら自分よりも学年が下の子の方がうまくて、

「山崎はいつもヘタクソだなー」

と言われたこともありました。

.....このようなことから僕は

「努力をしても頑張ってもダメなことがある」

「自分にはセンスも才能もない」

「自分はあらゆる面で他の人より劣った人間である」

このように、
まだ小学生でありながら自分のダメさ加減に絶望をし、

自分自身に全く「自信」が持てず、
完全に「自信」を失ったまま僕は成長していきました。

そして、小学生の段階からコツコツ努力しないと
周りに置いてかられることから、

何とか頑張って継続にしていたことにより、
無事に偏差値の低い中学・高校に進学することができました。

ですが、常に努力をしていかないと
周りに置いていかれることから

「強い劣等感」

を常に抱く生活を僕は送っていました。

そして、高校を卒業した時に

「あること」

をきっかけに僕はさらに追い詰められることとなるのです。

～第4章～

恋愛がきっかけで、
人と話すことが怖い、

声・手が震える対人恐怖症となり、
未来への絶望を抱く

幼い頃から何に関しても周りと比べて、
遅れを取っていた僕は学生時代に誰も通る道である

「恋愛」

ですら遅れを取っていました。

恋愛を意識し始める中学時代では、

**「僕のようなダメな人間が女の子と付き合えるはずがない、
もっと付き合えるのは高校生ぐらいになってからだろう」**

と自信がないことから、
好きな子がいても全くアプローチしなく、

また、多くの人が青春を味わう高校時代では、
男友達とばかり遊んでいて、

「うちの学校には可愛い子が少ないし、
その可愛い子には、もう彼氏がいるから学校で作るのは無理」

と、本当は彼女を作れる自信がないことを棚に上げて、
意味のわからないプライドを保つ為に、
トンデモない言い訳を言っていました。

そう、当時の僕は圧倒的な自信のなさを覆い隠す為に
無意味なプライドや言い訳をするような、
人として誤っている方向に進みつつあったのです。

当たり前ですが、嫌な現状から逃げてしまい、
今の自分が嫌でもしっかり今の自分を認めない限りは、
人間は成長していきません。

しかし、この時の僕は昔からの自信がなく、
何事も上手くいかない自分を大嫌いすぎて、

自分の現実を認めることが、
できなくなってしまっていたのです。

そして、現実から逃げている人間は、
いざ現実と向き合わなければいけなくなった時に、

今まで逃げていた分のツケを全て受けることになるので、
人によっては大変な状態になってしまうものです。

僕はそのツケを大学生の時に受けることとなりました。

それは高校を卒業して大学生になる前に起きた出来事がきっかけでした。

当時僕はホームセンターでバイトしており、
周りの男友達や先輩に恵まれたこともあって、

バイト先の堀北真希似の可愛い女の子（Aちゃん）と奇跡的に仲良くなり、
デートに行くことになりました。

僕「やべー、生まれて初めてのデートだ！カッコイイところ見せるぞー！」

そう思ってデート先である、ゲームオタク気味だった僕には無縁の場所である「渋谷」を下見しに行ったりと、準備を万端に備えたつもりでした。

しかし・・・・

Aちゃん「山崎くん、なんかいつもと違うけど大丈夫？（苦笑）」

僕「だ、だ、だ、だ、だいじょぶよお！い、い、い、い、つもと同じ！（震えた声で）」

「全然違うじゃねーかよ！」

と思わずどこからかツッコミが入るほど僕はド緊張しており、

そのデートは緊張から話が支離滅裂になったり、
下見をしたはずなのに緊張から地理が頭から吹っ飛んでしまって、
道に迷って同じところをグルグル回ってしまったり、

**挙げ句の果てには映画デートのはずが、
初デートの前日に緊張で殆ど寝てなかったのが災いして**

**映画が始まると同時に爆睡してしまうという、
最悪のデートとなってしまいました。**

その結果、良い感じだったAちゃんに
僕は愛想を尽かされて結局ダメに終わりました。

そして、生まれて初めてのデートが、
大失敗に終わったことがきっかけで、

元々自分に対して自信がなく、
無意味なプライドや言い訳ばかりして
現実から逃げてきてしまった自分自身が

「何もかもが他人よりも劣る人間」

ということを見たくなくても目の当たりにした時、

『**なんて自分はダメ人間なんだろう・・・**』

と、恋愛の失敗がきっかけで、

「**果てしなく強い劣等感**」

を抱いてしまったのです。

その後、果てしなく強い劣等感を抱いてしまった僕は
ものすごい卑屈的な人間になってしまい、

自分自身に完全に自信を失って、
人と話すことさえ苦痛になってしまって、

せっかく始まった新しい大学生活も、
人と積極的に絡むことをしなくなっていました。

さらに、元一人で過ごすことが多かった僕ですが、
この事件が起きてからは、さらに一人で過ごすことが多くなり、

家族や久しい友達としか、
まともにコミュニケーションを取らなくなってしまうぐらい、
引きこもりな生活になってしまったのです。

その結果、他人とコミュニケーションをしなくなってしまったので、
自信を完全に失い、劣等感が強い僕は、

あまり親しくない人と話す際に

「変な人と思われたらどうしよう」

「嫌われたらどうしよう」

「気持ち悪いやつと思われたらどうしよう」

と不安ばかり思うようになり、

僕はいつしか人と話すことに、
異常に緊張するようになってしまい、

あまり親しくない人と話す時に
声が震えたり・手が異常に震えるようになってしまったのです。

そして、そのような自分を見られないようにするために
さらに僕は人を積極的に遠ざけるようになりました。

まさに悪循環とはこのようなことです。

しかし、これが良くないことは、
当時の自分にもわかっていました。

だけど、怖かったのです。

「あの人いつも声震えてない？」

「なんかアイツ手がいつも震えててキモいよな」

「そんなに緊張しなくて良いのにね（苦笑）」

僕「（このようなことを思われていたり、言われていたらどうしよう。）」

このように実際は言われてもないのに、
ドンドン物事を悪い方向へ考えて行ってしまったのです。

そして、ついには日常生活にまで手の震えが及び、

飲み物がコップに沢山入っているとこぼすようになり、
レジのアルバイトでお客さんに小銭をわたす手が震えたり、
人前で文字を書く時に文字がミミズのような文字になったり、

と、対人恐怖症というレベルまでなってしまったのです。

この出来事によって僕は

僕「もうこんな自分嫌だ。

昔から苦勞ばかりで、どうせこの先も苦勞することばかりで、ロクなことないだろう
もしかしたら、死んだ方が楽なのかな・・・」

と、今だからはっきり話せるのですが、
この時ばかりは「自殺」を考えてしまうほど、
精神的にマズイ状態でした。

この時は本当に今思い返しても辛かったです。

もう嫌だ

もう嫌だ

もう嫌だ

辛い

辛い

辛い

何で僕はこんなにもダメ人間なんだ？

何で僕はこんなにもダメ人間なんだ？

何で僕はこんなにもダメ人間なんだ？

毎日が上記のようなネガティブな言葉が、
僕の脳内で繰り返されました。

僕はもう限界でした。

しかし、

そんな絶望している僕に
未来を変える2つの出来事があったのです。

(本レポートを著者の許可無く、無断転写・無断転載は一切禁じます。)

～第5章～

社会不適合者の バイト先 K 先輩との 出会いが僕の運命を変える

未来へ絶望し自殺願望も抱いていましたが、

「親には迷惑かけないように」と、

精神的にギリギリの状態でしたが、
何とか学校へ真面目に行き、

本当は辞めたいけど辞めると
唯一の趣味のテレビゲームが買えなくなってしまう為に
嫌々バイトをしていた僕。

そのバイト先で精神的にギリギリの状態の僕に
いつも空気を読まずに話しかけてくるK先輩と人がいう人がいました。

K先輩「山ちゃん、元気かい〜？」

僕「ええ・・・まあまあです。(元気なわけねーだろ)」

彼は高卒の20代中盤のフリーターで、
気さくだが空気の読めなささと仕事を真面目にしないこと、
そして、無駄にカッコをつけたがるいわゆるイタイ人。

そのような人であることから、
ホームセンターのバイト先の店長、社員、パートさんと大変多くの人に嫌われており、
そして、多くバイト仲間からも、のけ者扱いにされていました。

ちなみに僕もそのK先輩も悪い人ではないと認識していましたが、
外から見てイタイ人間でしたので、

あからさまに距離を置いて接していました。

そして、彼はいつもバイトが終わった後に

K先輩「今日バイト終わった後、暇かい？良かったら俺の家で飲もうよ！」

と誘ってくるのですが、

僕「すみません、学校が忙しいからバイトの後は無理なんですよ。」

と、このように断っていました。

が！

K先輩は空気が読めないので、
僕がバイトの後は忙しいと言って断っているのに

バイトがK先輩と一緒にいる時は毎回

K先輩「今日バイト終わった後、暇かい？良かったら俺の家で飲もうよ！」

と聞いてくるのです。

僕「(・・・本当にこいつはどうしようもない人間だな)」

基本的に僕は自分に自信がないので
他人を常に羨ましがっていましたが、

周りのみんなが「どうしようもない人間」と
口をそろえて言っていたK先輩にはこのように
正直、普段から見下していました。

ですが、恋愛での失敗がきっかけで、
精神的な余裕が全くなくなってしまった僕は、

ある時、魔がさしたのか

K先輩「今日バイト終わった後、暇かい？良かったら俺の家で飲もうよ！」

とのK先輩の誘いに

僕「あ．．．．今日は空いているからいいですよ。」

乗ってしまったのです。

そうして、魔がさした僕はK先輩の自宅に行ったところ．．．．．

僕「部屋むちゃくちゃ汚！！！！！！！！！！」

K先輩の家に案内されたのですが、
部屋はゴミや雑誌が散乱していて足場がない状態、

僕「こんな状態で人が呼べるなんてやっぱりまとも神経していないなコイツ」

と思って、なんか良い訳でもして速攻帰ろうと僕は思いました。

だけど、コンビニで買ってきたチューハイや
第三ビールでとりあえず乾杯をした後、
K先輩がこんなことを話してきたのです。

K先輩「山ちゃ～ん、最近超元気ないじゃん！なんかあったの？」

この時僕は

僕「（ああ、もうK先輩にも元気のなさがバレているのだから、
バイト仲間や社員さんにも、僕の元気のなさが伝わっているだろうな。」

と感じました。

そして、K先輩は続けて

K先輩「なんか悩みあったら全部聞くよ！俺、聞き上手だし！」

と言ってきました。

で、この時僕はお酒も入っていたせいか、

僕「(K先輩は職場の皆に嫌われていて、皆彼の話を聞こうともしない。彼になら全部話してもいいかな。)」

と、僕はK先輩に自分の現状を話したのです。

- ・生まれながらにしてセンスや才能がないこと
- ・努力をしないと人並みになれないこと
- ・人に対して劣等感しか感じないこと
- ・対人恐怖症の症状で手や声が震えること

等、一通り僕の生い立ちをK先輩に話したのです。

で、僕の話

K先輩「うんうん」

と、思った以上に深く頷いて良く聞いてくれたK先輩は僕の話聞き終わった後、このようにアドバイスをしてくれたのです。

K先輩「そっかー山ちゃんも大変だね。まあそんな悩みすぎも良くないから1日ゆっくり寝た方が良いよ」

僕「・・・・・・・・え？」

僕は目が点になりました。

僕「(僕が真剣に話したのに、何?この超適当なアドバイス!やはり、話すだけ無駄だったか・・・・・・・・)」

しかし、あくまでもK先輩なので、

僕「(期待した自分が馬鹿だった・・・・・・・・)」

と、思ったのですが
K先輩は続けてこのようなことを言いました。

K先輩「俺も色々な悩みがあるけど、寝れば大抵なこと解決するしね。

その日に怒られたことも、嫌なことも、寝て朝起きれば解決する。

この前も少しだけ仕事サボってたら、社員さんに胸ぐらを捕まれて怒られて凹んだけど、

次の日になったら気分が治ったから、その社員さんに元気に挨拶したら驚いていたよ。マジでその時の顔面白かったよ！」

僕「(この人は・・・本当にトンデモナイ人なんだなあ)」

この時僕は自分の悩みよりも、K先輩が改めてヤバい人間だと感じてガチでドン引きしました。

しかし・・・僕はガチでドン引きしたと同時に

僕「(社員に首捕まれて怒られているのに、なんでこの人は悩まないのだろう)」

と、この時から奇妙なK先輩に興味を持ったのです。

その後、当時の僕はK先輩のことを見下していたせいかな(良くないことですが)何故かK先輩と話している時は声も手も全く震えずにリラックスした状態にいることができたので、

この飲みをきっかけに、K先輩の誘いがある時は(というかほぼ毎回誘われた)たびたび一緒に飲むようになりました。

そして、K先輩から以下のような

- ・バイトの寝坊遅刻は日常茶飯事
- ・お客さんとの接客はクソ適当な対処（後でクレームになることもあり）
- ・バイト先の事務用品を自分の私物として使う

数々のクズ伝説を聞くことになりました。

で、何回かK先輩と飲むたびに仲良くなっていき、

次第に僕はK先輩に

「先輩は本当にクズですね。」

「先輩はバイト辞めた方が店の為ですよ。」

「うちの店の最大の失敗は先輩を雇ったことですね。」

と、本音冗談を言えるようにまでなりました（笑）

そしてK先輩はそんな言葉に対して

K先輩「ひどいよ～山ちゃん～」

となぜか嬉しそうにしていたのです。

正直キモかったです（苦笑）

だけど、そんなやりとりしている日々が続く中、いつの日か僕はK先輩と飲むのが楽しみになっていたり、K先輩という時だけは元気になってきたのです。

で、ある日いつものようにK先輩の汚い部屋でお酒を飲んでいる時に急にこのように言われたのです。

K先輩「山ちゃん、最近楽しそうな顔になってきたね。俺、よかったよ。」

僕「え？急にどうしたんですか？」

K先輩「だって一時期ひどい顔してたからさー」

僕「まあ色々と悩んでいましたからね。
にしても、K先輩は良く僕が何回も誘いを断っているのに諦めずに誘ってましたね。」

K先輩「いやー、だって元気ないから心配だったんだよ。同じバイト仲間だしさ」

僕「にしても、何回も誘って断られたら諦めませんか？気持ち悪い人だと思われそうですよ？
というかむしろ、多くの人に思われてますよ。」

K先輩「マジかー。そうだけど、あの時山ちゃん元気ないからほっとけなかったんだよ。
だから気持ち悪いかどうかなんて関係ないよ。」

僕「メンタルがタフですね。社員に胸ぐらを捕まれて怒られて時もそうでしたけど、K先輩メンタル強すぎでしょ。どうすればそうなれるんですか？」

K先輩という時は元気な僕でしたが、
それ以外の時は声や手が震えることがまだ多かった僕は

僕にとっては異常すぎる強いメンタルを持つK先輩に
アドバイスを求めました。

すると、

K先輩「どうすればって普通だよ。俺は普通に生きているだけだよ。」

僕「(ああやっぱりこの人に聞いたのが間違いだったか・・・)」

と、一瞬そう思ったのですが、K先輩は続けてこう言いました。

K先輩「あと山ちゃんが今日来てくれて、
こうやって一緒に楽しくお酒を飲めてるのだから、
俺はそれでいいだよ。

だって嫌なことや悪いことを、
いつまでも気にしてたら人生つまらないじゃん。
それだったら良いことを考えた方が人生楽しくない？」

そのK先輩の言葉が僕の胸は強く刺さりました。

なぜなら、僕は幼い頃から、
物事を良い事など殆ど思い浮かべた事なかったからです。

さらに続けてK先輩は言いました。

K先輩「良いことを考えてれば、毎日楽しいよ。
だから、山ちゃんは
もっと良い事を考えるのが必要かな！」

僕「もっと良い事を考えるのが必要・・・」

・・・思えば、

僕は幼い時から思い浮かべる事はいつも

「自分は人よりも劣った人間」

「自分は努力をしないと人並みになれない人間」

「自分はセンスや才能がない人間」

等とネガティブな事ばかりを思い浮かべて生きてきた。

そして、今の僕はそのネガティブな事を考えすぎて、
自分自身の人生をどう考えても良くない方に導いてしまっている。

そう思った時、僕は気づいてしまったのです。

今までの僕の人生は、

他人への嫉妬

自分自身への悲観的な思想

そして、圧倒的な劣等感

このように全てネガティブな事ばかりを考えて、
自分自身の人生を自らの手で壊していることに。

気がつくと自然と涙を流していました。

**なぜなら、実は自分自身こそが
一番自分を苦しめていた元凶だったことに気づいたからです。**

この時は本当に涙が止まりませんでした。

そんな僕の様子に

K先輩「ご、ごめん！俺、変なこと言った？」

と、K先輩は僕に物凄く謝ってきましたが、

本当に謝らなきゃいけないのは、
今後の僕の人生を左右するアドバイスをくれた先輩のことを
小馬鹿にしていた僕の方でした。

(本レポートを著者の許可無く、無断転写・無断転載は一切禁じます。)

～最終章～

才能もスキルもなく、
不器用だらけな僕。
でも、もう絶望などしない。

「寝れば嫌なことは全て解決する」

K先輩のアドバイスが次の日から
当時の僕の座右の銘となりました。

そう、次の日から僕はK先輩のアドバイス通り、
前向きな事を考えるように生きるようにしたのです。

**「何事も上手くいかないことで人よりも必然的に練習が多くなる、
だからこそ、人よりも必然的に経験値が溜まる。それは良いことである」**

**「手や声が震えることは相手に緊張を覚えるから震える、
相手に緊張を覚えることは相手をしっかり尊重しているからだ」**

**「嫌な経験や苦しい経験をするほど、その痛みがわかるようになり、
人に優しくできる。それは人生において良いことだ」**

などなど、このように事のあることを
全て前向きに捉えるようにしたのです。

その結果・・・・・・・・

常にネガティブな思考に引っ張られていた僕でしたが、
来る日も来る日も良いことを無理やりですが、

考えるようにした結果、
若干ですが良い方に考えられるようになってきたのです。

が！

元々ネガティブな思考で生きてきた人間が、
そんな簡単に思考など変わるはずがないのが現実です。

数日、数週間は前向きに考えることはできたものの、
一向に治らない手の震えや声の震えなどが原因で、

時と共に徐々にネガティブな思考に引き戻されしまい、
結局、元のネガティブな状態に僕は戻りつつありました。

「やっぱり、僕はダメなのか。
そりゃそうだよな。」

生まれながらにしてネガティブな思考で、
僕は生きてきたもの。」

最初は希望に満ち溢れていた僕でしたが、
結局何も変わらない現状に、

「ダメなものは、ダメなんだ」

と殆ど自分自身を変えることを諦めていました。

そんな時・・・・・・・・

ある日、自分の部屋の掃除をしていて、
埃がすごくて普段は手をつけなかったところでしたが、

「今日こそは徹底的に綺麗にするぞ！」

と、気合を入れて
部屋の隅から隅まで掃除をしていた時でした。

今まで放置してたので、
昔のものが出てくる出てくる

中学校の数学の教科書
赤点ギリギリの歴史のテスト
小学校の遠足の諸注意のプリント

そして・・・・・・・・

(ガサゴソガサゴソ)

僕「あ、これクソ懐かしいなー」

『学こうの日記 2年2くみ 山ざき りょう』

小学校の頃の僕の日記が出てきたのです。

僕「ちょっと何が書いてあるか見てみよう」

僕は埃まみれだったその日記の汚れをベランダで払って
十数年ぶりに自分の日記をしてみることにしたのです。

そして、めくってみると・・・・・・・・

僕「うわ！クソ字が汚い！先生は読むの大変だっただろうなあ（苦笑）」

当時の自分の字の汚さに自分でも驚きながら、
クソ汚い字の当時の日記を色々と見ていきました。

給食のこと

授業のこと

日直のこと

運動会のこと

遠足のこと

どれも2～3行で拙い文章でしたが、
それらを読んで懐かしい気分になってました。

すると・・・・・・・・

僕「あれ？なんかこのページだけ。むっちゃ長い文章書いてある」

どれも2～3行で拙い文章であったなか、
なぜか1ページだけ少し長い文章が書いてあったのです。

で、その日記の題を見ると・・・・・・・・

「言ばの学こうは今日でおわり！」

そう、幼い頃に日本語がうまく話せなくて通っていた
言葉の学校のことが書いてあったのです。

だいめい 言ばの学こうは今日でおわり。

ぼくは言ばの学こうに、
小がっこう 1年から月よう日と水よう日にいっていた。

クラスみんなはうまく日本ごがしゃべれるのに、
ぼくだけがうまくしゃべれないからいった。

だけど、

ぼくも日本ごがうまくしゃべれるようになったから
言ばの学こうは今日でおわりだ！

ほんとはいきたいくない日もあったけど、
さいごまであきらめなかったから、
じょうずに日ほんごが、はなせるようになった。

あきらめないことはだいじだ！

だから、これからもぼくは、
たいへんでもぜったいにあきらめない

あきらめなくて、ほんとうによかったから。

．．．．．僕はその場で号泣しました。

本当に今の自分が惨めで。

本当に情けなくて。

わずか8歳の頃の自分が
一生懸命諦めないで頑張って目標を達成していたのに

今の自分はたった数週間で、

自分の変えることを諦めようとしている。

そして、この頃の自分が
今の僕を見たらどう思うのだろうか？

すまない。

本当にすまない。

本当にごめんよ。

もう簡単にダメだとか二度と言わないよ。

最後まで全力でやるよ。

自分の命が尽きるまで、限界まで、
最後まで全力でやってみるよ。

．．．．．もう二度と折れないことを心に誓い、
僕は幼き頃の日記をゆっくり閉じました。

その後、その日を境にどんな辛いことがあっても、

- ・ 幼き頃の自分が誇れる自分になりたい
- ・ 幼き頃の自分をガッカリさせない大人になりたい
- ・ あらから数十年経った自分もその心無くしていないと言いたい

このようなことを思うと簡単に折れるわけにはいかなかったのです。

勿論、その後も辛いことや嫌なこともたくさんありました。

だけど、僕はその度にこのことを思い出すと、

**「あの頃の自分を裏切らない為にも、
諦めるわけにはいかない」**

と自然に立ち上がれるようになったのです。

そして、決して諦めない心を持った僕は、

1年、2年と時間は掛かりましたが、

時が経つうちに声の震えや手の震えを改善していき、
今でも緊張をすると酷い有様ですが幾分にマシになりました。

また、ネガティブだった思考も、
諦めない思考でいるように変わってからは、
もうそんなことはどうでも良くなりました。

世の中には才能やスキルがある人間は
確かに存在することは間違いないと思います。

そして、僕は生まれながらにして、
相対的に才能やスキルは劣っている人間だと
過去のことからも感じます。

けど、そのような後ろ向きなことを考えていても何も始まらない。

むしろ、無駄でしかない。

だから、そんなことを考えるよりも目標に向かって
今自分ができることを諦めずに、
どれだけ自分が全力で取り組めるかが大切。

と、自分の中で結論が出たからです。

(本レポートを著者の許可無く、無断転写・無断転載は一切禁じます。)

～あとかき～

**だから僕は誰でもネットビジネスを
成功できると心から言いたい**

．．．．．ここまで僕の過去を書いた、
稚拙な文章をお読みいただきありがとうございました。

そして、諦めないことを誓った僕のその後は、
[僕のサイトのわらしべストーリー](#)を読めばわかると思いますが、

やっぱりそもそも残念な人間であることから
結構色々な失敗をやらかしています（苦笑）

しかし、そのような失敗をしたとしても、
僕は過去の自分と約束した「諦めない心」を持って、
失敗ばかりでしたが、

実践を続けた結果．．．．．

**現在はネットビジネスにて自由を掴み、
不自由のない楽しい人生の時間を過ごしています。**

だからこそ、

こんなにも才能やスキルのなく、
他人よりもポテンシャルが劣る人間でも

「思い」だけで成し遂げた僕は

**ネットビジネスで月収 100 万円程度稼ぐことなど、
誰でもしっかり取り組むことができれば可能である。**

と、心から強く思うのです。

．．．．．正直、

僕はある程度稼げるようになってから、
ネットビジネスの成功者を僕はたくさん見てきていますが

結局、

高学歴だったり、

何かしらのスキルが飛び抜けていたり、

人脈が豊富だったりと、

**客観的に見て「普通の人」でなく、優秀だったり、
何か特殊なものを持っている人が殆どであるのが現状です。**

ですから「思い」一つで成功してきた僕は、
他の成功者の方から不思議に思われることが多いです。

また、人によりも能力が劣る、
僕が成功できたことに関して

「山崎さんは努力ができる才能があったんだよ」

と言われたりもしますしね。

けど、それが本当に「才能がある」というのであれば、

僕にとっては

言葉の学校に行かずに日本語がスラスラ話せたり、

先生の言うことだけで綺麗に「鶴」が折れたり、

**「ほしがきれいな夜でした。何がきれいな夜でしたか？」
という問題で、一生懸命勉強せずに「ほし」と答えられる**

という方の方が、
よっぽど才能やセンスがある人にしか思えません。

僕はみんなが普通にできることを、
努力しないとできない人間だったわけですからね。

ちなみにネットビジネスで稼いだ今でも、何かを一齐に同時スタートで作業をやらされると僕はビリになることが殆どです。

ですから、ある程度稼げるようになっても、自身のセンスや才能なさを感じることは多々あります。

しかし・・・

**そんな今でもダメな僕だからこそ、
ネットビジネスには、
生まれ持った才能やセンスなどなくても**

**最後まで諦めなければ成功できると
強く、そして心から言いたいのです。**

そして、同時に本当にネットビジネスで稼ぐために必要なのは、生まれ持った才能やセンスよりも、

誰でも後天的に獲得できる

「最後まで諦めない心」

こそが重要だと僕は確信しています。

(本レポートを著者の許可無く、無断転写・無断転載は一切禁じます。)

・・・長い間お付き合い、
いただきありがとうございました。

このレポートを読んだ人が
「1ミリでも」自身の未来に
希望を持ってもらえればと思います。

それでは、最後に僕が27年間生きていて、
一番多くの人に伝えたいことを書いてお別れしたいと思います。

思い1つで人生は変わります

H27/12/8 山崎

※是非、ご友人やご家族など大切な方にも
このレポートの存在を伝えていただけたら幸いです。

(本レポートを著者の許可無く、無断転写・無断転載は一切禁じます。)

PS.このレポートを読んで良いと思いましたら、
以下のメルマガも読んで頂けたら幸いです。

<http://jdline.mobi/yamazakimonogatari>

PSS.当物語レポートでは、アンケートを募集しております。

以下のリンク先のアンケートにお答えいただいた方は、

<http://nayumote.blue/cs2r/kanso564/>

【特別特典】として、

**無料ブログ開設後たった3日で3000アクセス集めるコツ
&
1動画で30万PV再生される動画を作るコツ**

という、

実践すれば **月5万~30万円** を稼げるようになる
ノウハウ pdf をプレゼント致します。

この特典は僕が実際に自動化して、
不労所得を得ている手法も含んでいますので、
ぜひ、受け取ってみてくださいね ^ ^

(本レポートを著者の許可無く、無断転写・無断転載は一切禁じます。)

で、受け取り方ですが、

上記のリンク先のアンケートで登録した

「名前」「メールアドレス」

以下のフォームに記入して登録していただければ、

<http://nayumote.blue/cs2r/tokutoku5/>

アンケート確認後に【特別特典】をプレゼント致します。

アンケートのご協力をよろしくお願いいたします。